



政治は「公助」充実を 知事の政治姿勢問う

●9月定例議会の初日の代表質問に、わが党の代表質問に岡田よしひで県議が立ちました。

菅首相が安倍政権を引き継ぎ、「自助、共助、公助、そして絆」の政治を進めると発言したことを厳しく批判。「政治の役割は『公助』の充実にこそあり、自己責任を求めただけだったら、政治はいらない」と知事の姿勢を問うたことに対して、浜

田知事は、「国は、すべての生活部門について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならないのは論を待たない」「公助は当然重要だが、自助、共助を支援していく事も公の役割だと考える」と答弁。岡田議員は、奈路地区の、高齢化が進み飲み水の管理も困難が生じてきている現実を紹介し、県民の暮らしを支える「公助」の充実こそ、政治の役割がある、そういう姿勢で県がしっかり取り組んでいく事が大切であり、求められていると強調しました。農業関連では以下のしんぶん赤旗の記事を紹介します。

種子条例制定を急げ

高知県議会 農業政策で岡田氏

高知県議会で9月30日、日本共産党の岡田芳秀県議が代表質問に立ち、農業政策などをただしました。

岡田氏は主要農産物種子法が2018年に廃止されてから、種子への公的責任の後退を止め、地域農業を守るうと、全国で種子条例制定の動きが広がっていることを紹介。高知県が要綱での対応にとどまり、条例制定を求める声を聞き入れないことを批判し、条例制定に踏み出すことを迫りました。

浜田省司知事は「農業団体や稲作農家から条例制定を求める声はない」と強弁。岡田氏

しんぶん赤旗
10月3日付

は「決してそんなことはない。私も農業関係者と話し合いをするが、条例をつくってほしいという声がある」と力説。浜田知事は「農業の現場の声を聞く機会に、種子条例に対する考え方もご意見をうかがってまいりたい」と答えました。

岡田氏は、南国市十市地区東沢で実施したほ場整備で農地の地盤沈下が起きている問題で対応をたどりました。西岡幸生農業振興部長は「農地の地盤沈下による不具合は、国庫補助事業の活用により耕作しやすい農地に改善することが可能である」と考えており、南国市と協議し事業化に向けた検討を進めていく」と答弁しました。

行き届いた教育を求める

学習会のご案内

●20人学級実現

先生増やそう

日時 10月24日(土)

午後2時～

会場 高知城ホール

講師 乾 彰夫さん

(東京都立大学名誉教授)

(主催 子どもと教育を守る高知県連絡会)

乾先生は日本教育学会の教育改革を目指す検討委員会の委員長として、「10万人の教職員増で少人数学級の実現を」の提言を行い、15万筆を集めたネット署名の教育研究者有志です。

菅首相は、日本学術会議の推薦した会員候補6名の任命を拒否。安倍前首相が官僚人事で黒川前検事長定年延長させようとした違法な学問分野で継承するもの。学問の政治からの独立を守れ!



カラリン
にやんでも通信